

インフルエンザ予防接種について（説明書）

※ 予防接種を受ける前に必ずお読みください。説明書を読んでいない場合、接種を受けることはできません。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこります。通常、初冬から春先に流行します。高熱や関節痛・筋肉痛、全身倦怠感などが突然あらわれ、せき、鼻水などの症状もみられます。普通の風邪に比べて、全身症状が強く、気管支炎や肺炎などの合併症を併発し、重症化することが多いのも特徴です。

インフルエンザの予防

●体の抵抗力をつける

十分な栄養と休養をとりストレスをためないようにしましょう。

●ウイルスをもらわない

人混みを避けましょう。マスクを着用し、手洗いとうがいをしましょう。

●空気の乾燥を防ぐ

室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ち、空気の乾燥に気をつけましょう。

●免疫をつける予防接種を受ける

ワクチン接種によりインフルエンザによる合併症を予防し、健康被害を最小限にくい止めることができます。

インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザの重症化や合併症の発生を予防する効果があります。

インフルエンザ予防接種の副反応

注射部位が赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがあります。また、発熱、寒気、頭痛、倦怠感などがみられることがありますが、通常2～3日のうちになくなります。接種後、数日から2週間以内に発熱、けいれん、運動障害、意識障害の症状があらわれるなどの報告があります。また、まれではありますが、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、ショックなど）があらわれることがあります。

予防接種を受ける前に

インフルエンザ予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。気になることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医師や役場 健康衛生課 健康係に相談し、納得した上で接種してください。

予防接種を受けることができない人

- ・明らかに発熱のある人（一般的に37.5℃以上を指します。）
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ・前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱のあった人
- ・全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ・その他医師が不相当と判断した人
- ・インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対してアナフィラキシーを起こしたことがある人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人
- ・過去にけいれんを起こしたことがある人
- ・過去に免疫不全の診断を受けた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ・間質性肺炎やぜんそくなどの呼吸器疾患がある人
- ・インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対してアレルギーが起こるおそれがある人

予防接種を受けた後の注意

- ・予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこることがあります。医療機関にいるなどして様子を観察し、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ・接種後24時間は、体調の変化に注意しましょう。
- ・入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ・接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。
- ・接種の後、まれに副反応が起こることがあります。接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などがあらわれたりしたら、医師の診察を受けてください。
- ・予防接種と同時に他の病気がたまたま重なってあらわれることがあります。

その他

医師が必要と認めた場合、新型コロナ予防接種と同時接種することができます。